# 組人

KUMIBITO

ひとつに
ひとすじ
ひと物語

No.5
2013
11月

今月の組人 地域の人と人を繋ぐプランナー

# かつて街の銭湯は地域の人々の社交場だった。

**大きなオレンジ**がこの街を茜色に染めていた。公園で遊ぶ子供たちの笑い声、風呂上がりに店の前で立ち話をする常連客…時代や街並みが変わっても「銭湯のある街」にはどこか昭和の雰囲気が漂っている。

『街の銭湯は地域の人々に対して絶対に無くしてはいけない存在だと思っている』。そう語るのは、たきのゆ三代目代表の長谷川多聞さんだ。

たきのゆには祖父から父、そして長谷川さんに引き継がれた歴史がある。その歴史はたきのゆと地域の人々との「ふれあいの歴史」でもある。

**桃畑と田園**が広がっていたこの場所で祖父が「たきのゆ」を開業したのは今から78年前のこと。

祖父母や両親は早朝から深夜まで仕事におわれ、幼い頃の長谷川さんは近所の家に預けられることが多かった。『風呂の入り方やマナーを教わったのも常連さんからだったなぁ』。当時の銭湯は地域の人々の情報交換の場だけでなく、地域コミュニティとしての役割を果たしていた。

『風呂屋の長男だから、その日が来ることは覚悟していた』。東京の大学を卒業後、大手建設機械メーカーに就職した長谷川さんのもとに突然父が現れたのは結婚半年を過ぎたばかりの新潟の新婚家庭だった。父が手にしていたのは店の新築設計図、そこには父の危機感と覚悟が詰まっていた。『このままではジリ貧になる』。父57歳、長谷川さん27歳…腹を決めた。

スーパー銭湯と呼ばれるものが全国に数える程しかなかった1988年の秋、複数の湯船や子供用のプールなどを備えた滞在型の風呂屋として生まれ変わった「たきのゆ」に再びお客さんが戻ってきた。

幼い頃の長谷川さんとたきのゆ

**時は流れ、街並みも変ったが地域の人々に「接点の場」を提供することそれが私の役目だ。**

**父と長谷川さん**の大改革から25年の時が過ぎた。

銭湯に来るお客様の変化について聞いてみた。『十数年前から高齢者の割合が極端に高くなった一方、高齢者の数が減少している』。それは仲間が集えるデイケア等のサービスが充実し、高齢者が銭湯に足を運ばなくなってきていることを意味する。

郊外型のスーパー銭湯等が乱立する現在、長谷川さんは3年前から「新たな設計図」を描き始めている。その設計図は25年前に父と共に形にした設計図とは異なる。

祖父の時代は脱衣場でも風呂場でも世間話に花が咲いていたが今は様子が違う。銭湯を単に体の汚れを洗い流すためだけではなく、『昔のように地域の方が気軽に世間話をできるような場所に戻したい』。人と人の接点を提供する場所を作ること、地域の人々を繋ぐ銭湯作りが長谷川さんの設計図だ。

商工会議所の勉強会や様々なセミナーに参加しながら懸命に描く設計図。これこそが長谷川さんが常に心掛けている近江商人の心得『三方良し』「売り手良し(たきのゆ)、買い手良し(お客様)、世間良し(地域社会)」に繋がっており、これからの時代の中で銭湯が生き残り成長するための策なのだ。

設計図が形になる時…それは銭湯が地域の力や活性化に繋がる接点の場として新たに機能した時なのかもしれない。

お風呂のデパート
たきのゆ代表
**長谷川多聞**さん
(55歳)
信条としている言葉
笑顔・謙虚

取材:前田剛和
撮影:高橋正勝

子どもと見たコト行ったトコ

大一印刷株式会社 専務取締役
髙橋正勝

## 子供と神社

毎朝、鈴を鳴らしてから出勤しています。

先日、子どもが目を輝かせて「出雲大社に行きたい!」と学校から帰ってきました。聞くと、旧暦の10月は全国の神々が出雲大社にお集いになられ、出雲大社だけは「神無月」ではなく「神在月」と呼ばれる、と教科書に載っていたそうです。普段あまり信仰心の無い私たちですが「年に一度のスーパーパワースポットなら!」ということで、家族そろって出かけてきました。

「全国からお集まりなんだから、あれもこれもいっぱいお願いしちゃおう!」と、下心いっぱいの一家が訪れたのは、もちろん島根県ではなく福井市にある出雲大社 福井分院。足羽山のふもとにひっそりと立つ日曜夕方のその神社は、近所の親子が散歩しているだけのとても静かな場所でした。

島根県で作られているという大きなしめ縄をくぐり、しっかりと商売繁盛をお願いした後、なぜか引き寄せられるように売店へ。ズラッと並んだお守りは、合格祈願や縁結びの他、携帯ストラップ、財布に入れるタイプ、子どもが欲しがるキャラクターなど、種類の他に色やデザインも多種多様で、ニーズに合わせてしっかり商品化されています。「買って買って!」とうるさい子どもをかわしながら家用のお守りを物色していると、御利益は同じ(はず)なのに何故か大小2つあるお守り。結局買ったのは「大きい方」。なかなか商売上手です。

# 印刷にまつわるエトセトラ

## こだわりの年賀状作りませんか!

インターネットの普及やプリンターが一家に一台当たり前の時代になって、年賀状をご家庭で作る方が増えています。

しかし、年末は忙しくてなかなか時間がとれない方や、費用をかけたくない方(プリンタのインクは意外と高い!)、手軽に、でもキレイに印刷したい方など、印刷会社を利用されるお客様もまだまだ多くいらっしゃいます。

弊社の年賀状印刷は、個人用やご商売用など豊富なデザインはもちろん、地元福井ならではの景勝地や越前和紙への印刷など、こだわりの年賀状を作ることもできます。しかも! **12月12日までにご注文いただくと、通常料金の最大30%引き**でご利用いただけます。

弊社の年賀状カタログは福井県内のハニー31店舗にも設置しております。

カワイイ女の子のイラストが目印です!

## 編集後記

幼少期に家族で出かけた「ファミリーレストラン」と「近所の定食屋」。あなたが大人になった時、子供ともう一度行ってみたいのはどちらですか?

前者にはアミューズメント性や選びきれない程のメニューがあります。では後者には? 後者には「人のふれあい」があります。それは店主とお客さん、そして世代を越えたお客さん同士のふれあいです。

そんな幼少期の出来事は想い出となり記憶の中に残っていくのではないでしょうか。

たまには夕焼け空を見ながら家族揃って近所を歩いてみるのもイイかもしれませんよ。

## 今月の組人追記

『結婚前、女房には後2〜3年はサラリーマン生活をするつもりだって話していたから、いまだに騙されたって言われるよ(笑)』。

こんな仲良し御夫婦は今日も元気に「たきのゆ」の番台に立っています。

大一印刷株式会社 〒910-2142 福井県福井市前波町17-6-1 TEL.0776-41-3741 FAX.0776-41-2442